

実践例 県立真岡高等学校

教科・科目等 総合的な探究の時間（１学年）

本時の目標

男女の役割を固定的に捉える意識や、社会生活の様々な場面において女性が不利益を受けている現状を理解し、それらの問題を受容したり、考えたりすることができる感受性を養う。

育てたい資質・能力等

男女間の差別の不当性を見極め、状況を適切に判断する。（判断力）
その差別に対する悲しみや怒りを受容することができる。（感受性）

教材 「人権の窓」（男女共同参画編）（高校生用）、ワークシート

展開

- 日本のジェンダーギャップ指数と栃木県の男女間の賃金格差をもとに現状と課題を確認する。
- 身のまわりにある男女間の違いについて話し合い、その合理性について協議する。
- 「合理的ではないもの」について問題点や、それぞれがどのように向き合うのか協議する。
- 「G7 栃木県・日光こども未来サミットの取組」について説明し、同年代の生徒たちの動き・考えについて確認する。
- 「人権の窓 チェックリスト」を活用しながら、学習についての振り返りを行う



↑ 活動の様子

●生徒の感想

- ・『カジダン』などといった言葉のくくりは差別を助長するものになっているのではないかと今回感じたと同時に、すべての人が自分の思うように生きることの難しさも感じました。
- ・「生きやすさ」が求められる時代になってこそ、主張が強くなってきた「人権問題」。私たちはその最初の舵取りを時代から託されているような気がしました。
- ・男女関係なく好きなこと得意なことを社会のためにできるような社会になってほしいと思いました。